

青少年の健全育成を

ふるさとと教室 館長 藤本 秀雄

青少年をとりまく現在の社会的、文化的状況は極めて憂慮すべきものであります。誰もがじっとしていられない、何等かの手を打つべきだと考えていられると思います。親も教師も子どもそれぞれ立場で頑張っているが、なかなか効果がうすいようです。

青少年を健全に育てることは、家庭や学校だけでなく地域ぐるみで話し合い、知恵を出し合いこの問題に取り組む必要がありす。

ふるさと教室は、中心目標を「人間をどう育てようか」とも「暮らしを守り、ふるさとを住みよくなる教育」におき、実際生活との係わりの中で青少年を守り育てる方策を探り、未来発展の持てるふるさとづくりを推進するに力にならなければなりません。

由良地区も本年度十月、十二月、二月と三回ふるさと教室を開催し話し合いました。第一回青少年関係団体の取りまとめ

みや東状を發表し合いました。

第二回は小中学生の健全育成をテーマに本庄中の三野先生の高川でのよい子どもを育てる会が地域ぐるみの取りくみについて話さぎいて由良の子ども会、遊び場、あいさつ運動等について話し合いました。

第三回は、青年や高校生の健全育成をテーマに、宮津高校の山下先生の高校生の実態から家庭や地域に希望される点の話を承り、由良の青年や高校生の問題点を話し合いました。

来年度はふるさと教室指定二年目として、今まで話し合ってきた課題の解決のため、具体的な何をどうしなければならぬかが、いっ誰がどのようにするか、実行計画を立て、地域ぐるみのふるさとづくりをお願いしたいと考えています。

本年度話し合いました課題抜粋

- 子ども会について。○子どもの遊び場について。
- あいさつ運動について。○親子マラソンについて。
- 生活の合理化について。○青年会づくりについて。
- 高校者友会地域懇談会について。
- 高校生と「青年会」について。
- 子ども会について。
- 高校生と地区行事について。

◆ 報告 土口

主事 平間 克己

一、森嶋外文字除幕式 十一月三日

秋晴れの文化の日、鷗外作「山椒太夫」の記念碑が、鷗外の二女で随筆家の小堀杏奴さんご招き、矢野市長、野中副知事を始め「文字碑を建てる会」の会員の外、多数の参列の中で盛大に除幕式が行われた。私達は誇りと責任を持って、永く後世に残る文字碑を守りなればならないと思つ。

二、文化祭 十一月二十五日

書道、生花、写真、絵画、エッチング、組紐の帯いめ、紙人形、それに可愛らしい二盆裁、対象的なたむ二畳分の西郷隆のシメンホ似顔の墨絵等多彩な芸術品、日頃の精進が感じられる逸品揃いであった。中でも四方寿朗先生の老友会員の類写真は被写の当人はもとより、家族の方からも「元気そうに写して頂いてよかった」と喜びの声が聞かれた。又小宮桂泉（三三子）様（先生には清楚な多くの生花の出品で、会場を明るくして頂いた上、会場に茶室を設け、ひとまりり展示を見てきた入達に、お寺前を披露しお茶とお菓子の接待をして頂く等、御協力下さいました。この文化祭を高く評価されたの

か、翌日の京都新聞には写真入りで、その好評ぶりが報道されていた。

三、第三回ふるさと教室 十二月十一日

「小中学生の健全育成」をテーマとして、本庄中学教諭三野先生を講師として招き、書道方体験談にアンケートを資料としての講演があり、又石浦地区より前向きな建設的な発言がある等、成果のある会合であった。

四、囲碁会 一月三日

例年通り一月三日、由良地区囲碁会が公民館後援のもとで中央公民館にて由良囲碁同好会によって行われ、十七名の会員により、終日熱戦が転回された。因に由良囲碁同好会は宮津農協主催の囲碁大会で二年連続入賞の好成績をおさめています。今後は月例囲碁会を第一土曜日の予定で、新入会員を募っています。会費は月百円、申込みは駅前通り石井方へ五、成人式 一月十五日

今年の由良地区の成人は、男五人、女十一人。成人式の開幕は郷土芸能の吉津の神楽で厳粛に行われた。毎年のごとく、市教委の教習課では、平服参加を呼びかけ、又参列の

成入が遺憾ないよう細心の配慮する等印象的であった。
六、オ三回ふるさと教室 二月十一日

青年や高校生の健全育成」をテーマとして、講師として山下憲次先生を招き、高校生の実態とアンケートによる具体的な問題提起、今後の有効的な対策と指導等懇切に教えて頂き、又参加された二十四人の熱意ある討議と建設的な発言で終始し、今後の「ふるさと教室」の重要性が確認された。

以上

❖図書室上からのごあんない

文化部長 中田俊夫

「読書」といふことは聞くとき、わたしをどうにかく「読書即学習」といふイメージを必ずつけ、何かかたぐるしいほどの感動を味わうべきです。

勿論、読書の姿として、仕事のために読んだり調べたり、また芸術研究のために読まなければならぬこともあつてはつたが、

このように聞かされて、感じのものがなくなると、例をば、寝ころがって趣味の本や小説なども読むのも、また楽しんでいこう、といった読書の姿は、この世にありません。

こんな図書室を講入しました。曾野綾子作「神の汚れた寺」

など、人と人との日常のいとなみを社会とのかかわりのなかで描きながら、今日的なものの見方や社会の問題を鋭くほりさげ、読みすすむにつれ楽しんでいとも私たちに生命の尊厳をひびきと感ぜさせる共感な作品を一つと思ひます。

「たかが小説くらい」「小説なんか作りごと読んでどころが...」といふことを聞く人もありますが、

小説や童話などの図にこそ、作者の思想を凝縮した、人生の機微やものの見方、考え方が内包されているように思つたのですが...。図書室ではこの作品のほかにも新に購入した本を備えつけました。皆さんに読んでいただくことをお待ちしております。

利用は、市の出張所、開所時間中ならいつでも、図書室のときは、出張所の係の方に言っていくだけで。

新着の本

- しまがらみ降入、中国 ○おもひの美
(田所竹彦) (服部和子)おもひの随想
- 私の育てられた方 ○清けもの三五の種
(三浦雄二郎) (渡瀬まき) (4冊)

No. 2

○寺がるに お菓寺、おやつ ○三六五日のおかき百科
つくれる (筒井載子) (主婦の友社)

○甦る田田 ○鳳仙花
(菊島隆三) (中上健次)

○素直な容疑者 ○もっこもっこ自由地
(原田康子) (石川達三)

○神々の夕映え ○女のそらばん(上下)
(渡辺淳一) (平岩弓枝)

○遙かなる海嘯 ○枯古羅
(西村寿行) (中上健次)

○裸の町 ○男の本懐
(五木寛之) (城山三郎)

○おじいちゃん ○野の祭
(瀬戸内晴美) (三浦哲郎)

○海燕ジヨウの奇跡 ○暮しの絵巻
(佐木隆三) (岡部伊都子)

○気はだんごのすずめ ○由良川子と風土記
(塩月弥栄子) (由良川子と風土記編集委)

リフエストのありました次の本は、書店に注文中であります。お待ちください。

❖立ち止って考えよう

由良の歴史をよむる会 四方 寿朗

先日新聞によると、スーパー業金の雄「タイエー」が四月から学習塾の経営に乗り出す。そのやり方は、塾の先生にも試験と競争を競争させるといふ。お金もつかけのためなら何でも出す日本商法が、遂にこの世を来してしまった。教育は本来、人間として生きるための能力をつけさせるものがある。靴のひもが結ばない、お箸がすくもに使えない中学生がいる。経済優先、学歴偏重社会の弊害が叫ばれて久しいが、誰も自分から立ち止まろうとしない。出きるだけ何が何でも一度自分自身の問題として考えてみたい。

数十億年という長い年月地球に蓄えられた石油を、ほんの四、五十年間に殆んど使ってしまった。慌てている我々である。カモシカが苗木の若芽を食い荒らして困るといふ。しかし、これは人間の方が悪い。動物たちの長年のすみかだった自然の森を、人間の都合だけで伐り払い、杉や松にかえてしまった。地球には田代種もの生物が、お互いの命を守つてつづしく生きていく。共存は自然の掟である。ところが目先の事しか考えないあさけかたな人間共が、この掟を無視し、勝手に木を伐り止まらずし、海を埋め、毒を撒いて気に入らぬ生物

の皆殺しを謀っている。自然の法則を無視した人間の横暴は必ず天罰を受け、このまま進めば人類は遠からず滅亡するであらう。

戦中戦後の混乱の中を夢中で生きて来て三十年、気がついてみると我々の生活はすっかり変わった。物が豊になった反面、人の心は貧しくなった。自然の破壊はすさまじい。

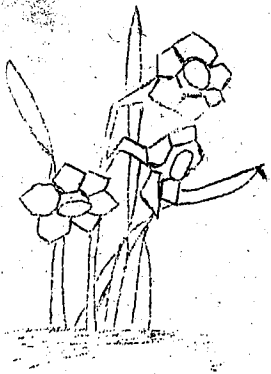
農業を粗末にする国は、いずれは亡びるという、世界的な食糧危機に休耕田へお金を出す、飢と栄養失調で死んで行く難民があるのに輸出も出来ない古米が倉庫に眠っている。而かも日本の食糧供給率は四十％に過ぎない。農民の生活と国民の命を守るための農業政策は現在の日本には存在しない。

歴史の好きな者が集って、由良に我々の会が発足してから早や八年を迎えようとしている。月三百万の会費納入と、毎月十日に例会を開く以外に会則はない。市教委や由良公民館の御指導御協力を得て、各人が各様の研究や活動を続けていく。近くその成果の一部を「由良の歴史第二号」に発表の予定である。その中には大きな夢がある。それは由良川の水戸口で昔のようにならぬように「いさぎ」がたくさんとれるようにならぬようにである。

外不味に感じ益々か弱くなります。七分搗米も良いが、玄米食は更に素晴らしい。玄米釜で上手に炊き上げた飯は、フワツとし軟かくシヤありネバリありカメバカム程、甘味ができておいしい。便通の少ない人も毎日あるようになり、風邪も追々引かなくなり、体に痛みある人も痛みが消えて肩もこらぬし労働の疲れも軽くなり、飯もいつもおいしく、する事成す事面白く睡ても朗で生き甲斐も更に大きくなります。癌や其他の難病も玄米人にはわりつけぬようです。

但し玄米食だけであらゆる病気が防げるものではないかもしれません。心のもち方、体の動靜、環境の良否等大いに関係します。然し乍食物に関する限り玄米食にすれば其八分、九分の病気は消失するものと私は確信しています。

玄米でなくともセメテ七分搗米を若い皆さまが恰好を構わぬ人中でも平気で食べられて、益々健康とされる事を切望して、擲筆します。



立ち止ってみんなを考えよう。由良の将来を、我々の幸せを。
(五五、二、二八)

◆白か黒か

老友会員 熊田 熊一

東北地方に十二分搗米といつて米を白く白くついでたべるのきまじしあっている村がありました。東北大学の近藤博士から日本でも数少ない短命村と指摘されたのをキッカケに村役場で対策を講じ以後村民がスーッと黒くついでたべるようになったら却って長命村になり変わったという事です。今上天皇陛下は七分搗米に表を三分混ぜた飯を口にして居られる由。而も八十才の長寿を益々御健康でいられますのに、我々国民が天皇様よりも贅沢な白米をフンサとてバ病気で苦しむ人の多い現代です。

日本人は神代の昔から豊原瑞穂の国とて玄米を食べつづけてきた筈に処、元禄時代から奢侈に流れ米を白くついでたべる事を憶え、体も虚弱になりました。

米へんに白とかいて粕、康とかいて糠、健康な糠を削りとって白米即ち粕をたべておるのが現代の間違った食生活です。健康な人は、粗食も美味しく、か弱い人は高価な美食も案

No. 3

◆二年間を振りかえつて 中西 昭子
寒さもそろそろ峠をこし春のやわらかい陽ざしが見えるようになってきました。

過去二年間婦人会の大役を預り乍ら、ただ役向の行事に追われ、由良全域の婦人会で有りたいたい願いましたが実現出来ず努力の足りなかつたことを恥じています。

記憶にとどめて居られる方もあるかと思いますが、昭和十七年大日本国防婦人会、由良支部として結成され戦時中めざましく活躍してこられました。終戦と共に解散、二十一年戦前の由良村婦人会にかえり、二十四年三月、四十二才以上を睦会、以下を母の会とし姉妹二戸に二人の会員の家が近く、二十九年には合計三百六十四名の会員を持つ盛大な婦人会組織でした。三十一年宮津市婦連に合併し、三十七年睦会母の会と一本化し、以来たんだん減り、四十八年度で脇地区は崩壊し各支共に役が来さうだからと脱退者が多く、考へ直さねばならない時期が来ています。

婦人会組織は各種団体の審議会に参加させていただき、発言権を手立てもいろいろ、地区の発展、会の親密、個々の成長

家庭を築き上げていく上で役立ち、色々な環境にめぐりあった場合の強さをも身につける助けとなるのではないだろうか。忙しく立まわる母を見て子供は励ましとなり、自分自身が年寄った場合も考え、年若い人達をきましく思わせない為にも、それぞれの職業の一家の主婦として母又嫁として、その人ならではの家庭を作っていられる一人一人が誇れる地区こそこの婦人会となるだろう。とんとん役員さん方に希望して欲しいと思います。

愛宕き社会は暗黒なり、汗なき社会は、随落なり、愛と汗の結晶即ち幸福なり。

何かで読んだ一節ですが、暇が有り過ぎて役を引き受ける人はないと思います。何かの恩恵がないからとか、自己的の考え方を持たず、一人でも多く長く居心地の良い組織であるよう努力してほしいと思います。

成人式に出席された方の方

ご紹介(敬称略)

- (脇) 一井 勝世、土岐 聖美、真下 美和子
- 松本 ふみ代、山本 宏美

はあふふや、支離滅裂を、明瞭に言い表すことはできなくとも、若い行動力という特権を最大限に生かすことで、幾多の苦難にぶつかろうとも乗り越えられるものであり、次第に人生経験を積み重ねる社会により大きく羽ばたける時が訪れるのです。こうして一握のちっほけな雲は、いつの日か大自然の雲に雨をもたりますように、それは草や木やありとあらゆる社会に対して生命の息吹を与える恵みの雨であると信じています。そしてくたわら。

今こうして二十年間を振り返ってみれば、さまざまに思い出が舞って来ます。なかでもききもの頃、由良浜や由良川そして由良岳を遊んだとき。これから社会へ羽ばたく二十七年、由良の土地に残る者は何程かですが、でも他の地域へと歩む仲間も素晴らしい地に生れ育ったことを誇りとし新たな生活のつかむでしよ。

最後に、私たちが今までに数えることのできない多くの人々に支えられて生きてまいりました。その方々をばじめ、おまじろこのようにお言葉に答えてあげて下さった両親に深く感謝いたします。

- (宮本) 小西 美津子、坂根 康則、田中 かおり
- 折井 弘美
- (浜野路) 大町 洋子、小室 仁美、磯田 勝美
- (港) 山田 良明、山田 忠雄
- (下石浦) 折田 英子、山下 典子

以上十六名

二十歳に田中

昭和五十五年成人者

昭和五十五年一月十五日、空からは風花も舞い踊る花壇の中、私たちは成人式を迎えることができました。

この日を期とし、胸には皆思い思いの夢や希望を抱きながら、社会という大空へ飛立とうとしています。

でも私たちは今二十歳。一気に背伸びしようと思っていませんし、出来る筈もないことを知っています。たとえるなら、ポッカリと空に浮かぶ一握の雲のようなものかもしれません。風に吹かれれば身を持って遊ばれながらのことく行先さえ知らぬ雲は、しかし、二十歳の顔を持ち、二十歳の考えで行動しているのです。現に就職している者、今から就職する者も、勉学に励んでいる者と個人個人の成人としての意志・目的

お知らせ

東京在住者の中で結成されている双鶴同窓会の中で、発展的細胞として由良会が設立され、約二十名が入会して、その人達の総意で由良公民館をよしが読みたいとの便りがあり、今後はこの御要望に心を配りたいと思います。

尚、世話役の住所

東京都板橋区高島平三丁目一〇一五二六

坂本 圭彦様

又参考までに鶴外二女、小堀 杏奴様の住所

東京都世田谷区梅が岡二丁目一八七

爪紋桐規定

▽紙面のペンネームは可とするも、原稿には必ず住所、氏名を明記すること。

▽原稿に関する取捨はすべて編集部にて任すること。

▽投稿は、四百字詰中判(A4)原稿紙を使用し、階書のこと。

尚、原稿用紙二枚以内とする。

▽締切りは、二月、八月、十月のそれぞれ末日とする。

▽原稿送り先は、左記あり。

向津市由良 ハム館文化部長 中西 俊夫